令和７年度「人権教育研究推進事業」研究指定校事業

都道府県・指定都市名（　新潟県　）

１．基本情報

研究指定校名	上越市立東本町小学校

○これまでの研究指定等の状況

令和６年度「人権教育推進事業」研究指定校

○学級数

15 学級（うち特別支援学級：３学級）

○児童生徒数

350 人（令和８年２月６日現在）

○URL

http://www.e-honcho.jorne.ed.jp/

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	差別を自分の問題としてとらえ、自他の人権を大切にする主体的な行動力の育成

○調査研究のテーマを設定した目的

当校は、同和教育を中核とした教育課程の編成・実施・評価・改善に取り組み、児童の発達段階や社会状況等に応じて、取り上げる人権課題と学習方法の検討と改善を図りながら実践を積み重ねている。そのため、日常生活において互いの個性を認め合い、励まし合ったり、助け合ったりする態度が育っている。一方で、いじめの問題や差別事象に対しての受け止めが表面的な子どもも見受けられ、主体的に人権問題の解決のために行動する力は十分に育っているとは言えない。そこで、児童主体の人権教育、同和教育の授業の実施、改善に取り組み、自他の人権を大切にするために主体的に行動する力を高めたいと考え調査研究のテーマを設定した。

〇調査研究の概要

人権教育、同和教育の授業（以後、同和学習）において、自分自身の言葉で差別事象への考えやおもいを表したり、他者との「対話」を通じて思考を深めたりする活動の充実を図る。子どもの「対話」に着目することで、子どもが差別事象をどのようにとらえ、授業の中でそのとらえをどのように変化させているのかを見取る。そして、同和学習において再構築された差別事象や自分の行動へのおもいが、自他の人権を大切にする姿にどのように結びつくのかを検証する。

さらに、令和６年度の取組からは、児童の考え方や行動の変容を見取ることに課題が残った。同和学習における気付きや思考の深まり、生活場面での行動の変化をどのように見取っていくかについても研究を推進させる。その結果を「３期３類ひがし同和学習プラン」「年間指導計画」に反映させるとともに、同和教育研修会を実施することを通して、新潟県全域での人権教育、同和教育の充実につなげていく。

〇指定理由

本県では、新潟県人権教育基本方針を定め、すべての学習機会を通して、人権尊重の精神に基づき、一人一人の個性や多様性を認め合い、自他の人権を守る行動力の育成を図る人権教育を推進している。県内のすべての小・中学校で人権教育、同和教育に関する教職員研修を実施しており、各校は年間指導計画を作成して、同和問題をはじめとする個別の人権課題に関する学習に取り組んでいる。

しかし、社会の変化に伴って顕在化してきている人権課題にどのように向き合っていくかが課題となっている。人権教育を取り巻く国や国際的な動向、新たな人権侵害が発生している状況を踏まえ、取り扱う人権課題を具体的に設定し、実践を行っていく必要がある。

本調査研究においては、他者との「対話」を通じて思考を深める活動の充実によって、自他の人権を大切にする姿＝実践行動力にどのように結びつくのかを検証することとしており、様々な人権課題へどのように向き合っていくのかという点も含めて成果が期待できる。また、発達段階に応じた人権課題を取り上げた同和学習プランは、教科横断的な視点をもって学習内容を関連付けたり、指導方法を工夫したりしており、カリキュラムマネジメントの実践としての成果も期待できる。

上越市立東本町小学校は毎年 11 月に同和教育研究会を開催しており、県内外から多数の参加者が同校の取組から学んでいる。本研究指定事業に取り組み、その成果を県内で広く共有することは、本県における人権教育の推進に大きく寄与するものと見込まれる。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。
※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

① 子供	〇
② 女性	
③ 高齢者	
④ 障害者	
⑤ 同和問題	◎
⑥ アイヌの人々	
⑦ 外国人	〇
⑧−１ HIV 感染者等	
⑧−２ ハンセン病患者等	〇
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	〇
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	〇
⑭ その他（新潟水俣病患者）	〇

４．調査研究の内容等

〇調査研究の内容

調査研究のテーマで示した子どもの姿を目指すために、以下の仮説に基づき、「対話」のある授業を実施し、子どもの考え方や行動の変容からその有効性を検証していく。

差別事象と出合った子どもは、自らの直感・直情で差別事象をとらえる。しかし、そのとらえは、表面的で一面的な思いになりやすいと考える。その後、他者との「対話」によって、差別事象に対する多様なとらえがあることに気付く。（他者とは、学級内の子ども、教師、ゲストティーチャーや講師など交流した方等）他者との「対話」によって、子どもは葛藤や疑問を重ねながら、多様な価値観を踏まえた内なるおもいを自己との「対話」からつくっていくと考えられる。授業の終末で、子どもは「対話」によってうまれたり広がったりした気付きを整理し自らと向き合いながら自分の行為・行動をつくり変える。「自分は、差別に対して、こうありたい」「差

別のない社会をつくりたい」…こうした子どもの姿は、差別を自分の問題としてとらえ、自分の生き方に向かう姿と言えるであろう。

○実施方法

①「対話」を重視した同和学習の実施と子どもの考え方や行動の変容を見取ること

自身のことばで差別事象への考えやおもいを表したり、他者との「対話」を通じて思考を深めたりする活動を充実させた。他者とのかかわりから自分の価値観や行動を見つめなおす活動を充実させるために、次のイメージ（図１）を意識して授業を構想し、研究授業を実施した。

具体的には、自分のこととして考えたり、行動したりできるような資料の工夫、対話を意識した活動の工夫、児童の気付きや考え方の変化を見取るためのアンケートの実施、学習シートの改善、児童の姿で語る協議会を実施した。

②学びの連続性を意識した「３期３類ひがし同和学習プラン」に基づく活動の実施と改善

「３期３類ひがし同和学習プラン」（図２）に基づき、授業実践に取り組んだ。人権教育を取り巻く国や国際的な動向、新たな人権侵害が発生している状況を踏まえ、取り扱う人権課題を具体的に設定し、「同和教育に関する年間指導計画」を見直した。

このプランを基にした同和学習の実施に当たっては、国立ハンセン病資料館、東京都中央卸売市場食肉市場、新潟水俣病資料館等で授業者が学んだり、障がいのある方と繰り返し児童が交流活動を行ったりした。

図１＜子どもの学びの様相にもとづく授業イメージ＞

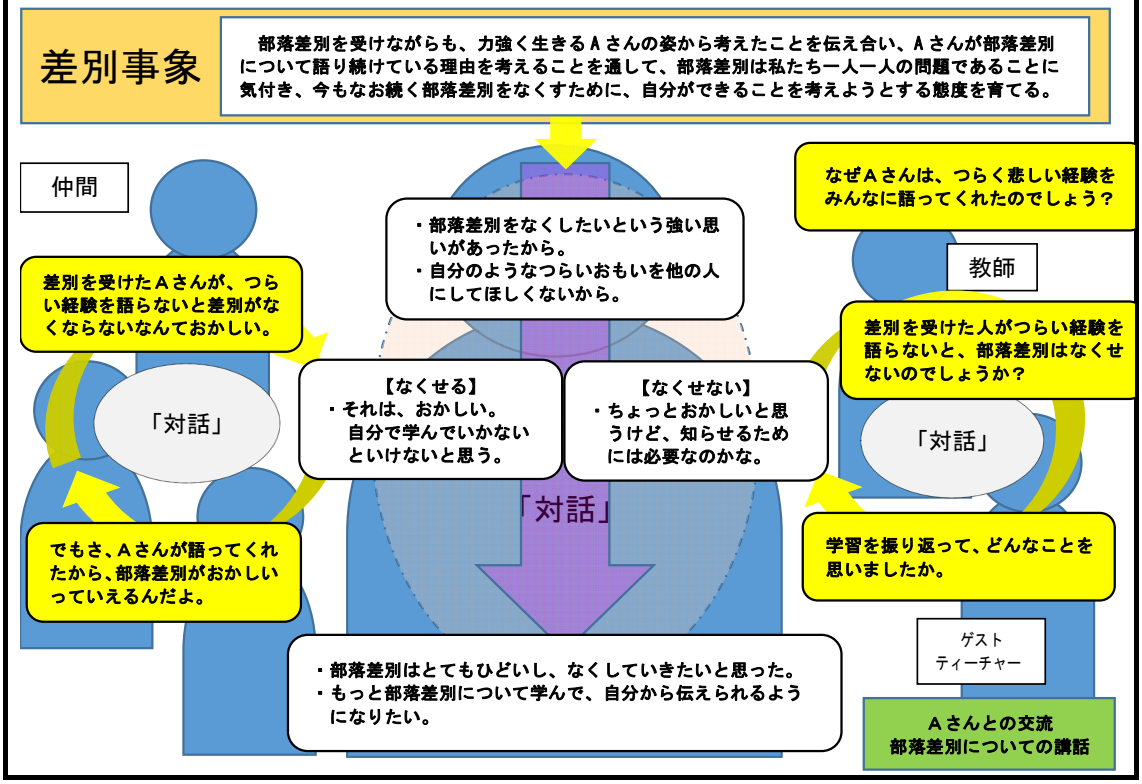
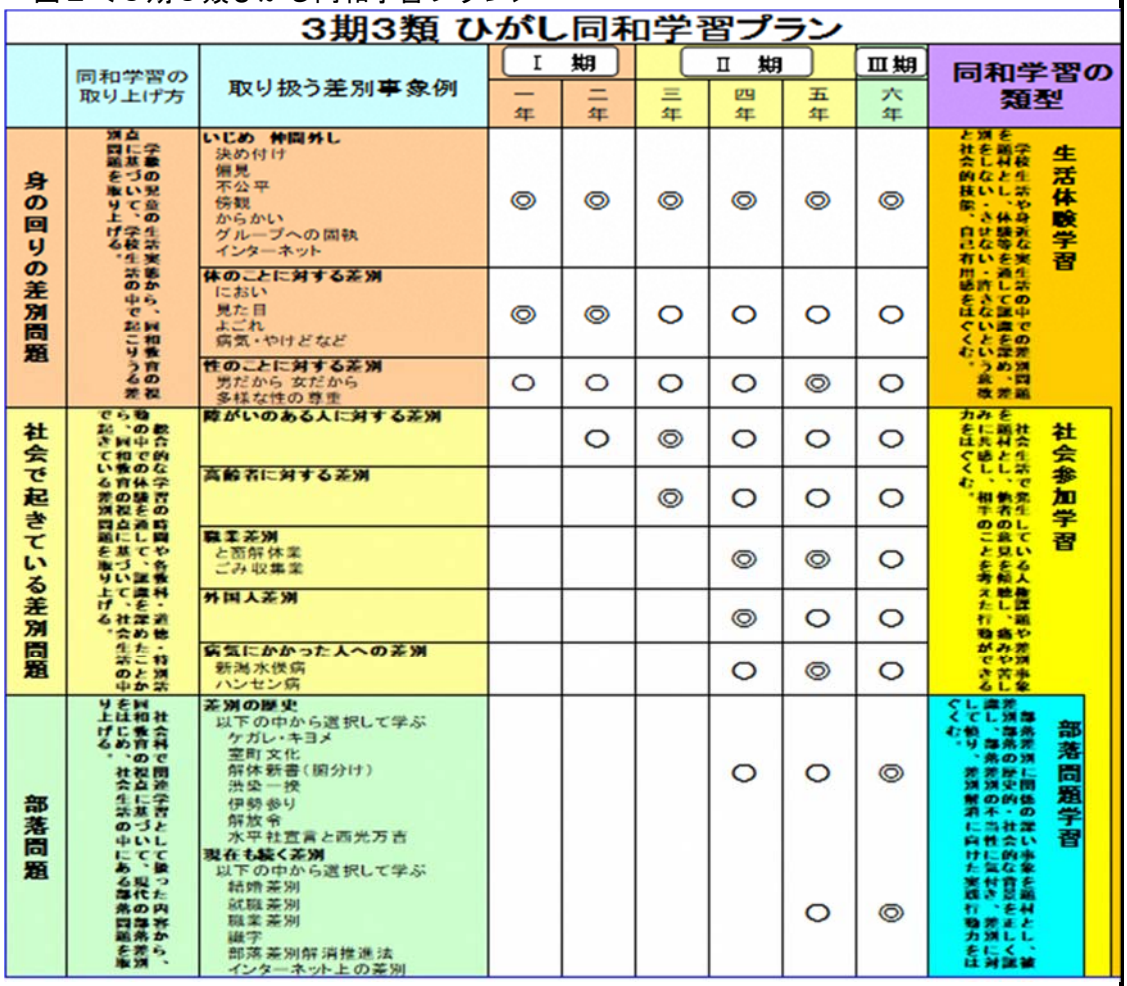


図２＜３期３類ひがし同和学習プラン＞



３期３類 ひがし同和学習プラン

	同和学習の取り上げ方	取り扱う差別事象例	Ⅰ期 一年	Ⅰ期 二年	Ⅱ期 三年	Ⅱ期 四年	Ⅱ期 五年	Ⅲ期 六年	同和学習の類型
身の回りの差別問題	学級の児童の生活実態から、同和教育の視点に基づいて、学校生活の中で起こりうる差別問題を取り上げる。	**いじめ　仲間外し** 決め付け 偏見 不公平 傍観 からかい グループへの固執 インターネット	◎	◎	◎	◎	◎	◎	生活体験学習 学校生活や身近な実生活の中での差別問題を題材とし、体験等を通して課題を深め、差別をしない・させない・許さないという人権感覚と社会的技能、自己有用感をはぐくむ。
		体のことに対する差別 におい 見た目 よごれ 病気・やけどなど	◎	◎	○	○	○	○	
		性のことに対する差別 男だから 女だから 多様な性の尊重	○	○	○	○	◎	○	
社会で起きている差別問題	総合的な学習の時間や各教科・道徳・特別活動の中での体験を通して、課題をつかんだことから、同和教育の視点に基づいて、社会生活の中で起きている差別問題を取り上げる。	**障がいのある人に対する差別**		○	◎	○	○	○	社会参加学習 社会生活で発生している人権課題や差別事象を題材とし、被害者の気持ちを想像し、痛みや苦しみに共感し、相手のことを考えた行動ができる力をはぐくむ。
		高齢者に対する差別			◎	○	○	○	
		職業差別 と畜解体業 ごみ収集業				◎	◎	○	
		外国人差別				◎	○	○	
		病気にかかった人への差別 新潟水俣病 ハンセン病				○	◎	○	
部落問題	社会科で関連学習として扱った内容から、同和教育の視点に基づいて、現代の部落差別をはじめ、社会生活の中にある部落問題を取り上げる。	**差別の歴史** 以下の中から選択して学ぶ ケガレ・キヨメ 室町文化 解体新書（図分け） 渋染一揆 伊勢参り 解放令 水平社宣言と西光万吉 **現在も続く差別** 以下の中から選択して学ぶ 結婚差別 就職差別 職業差別 継字 部落差別解消推進法 インターネット上の差別				○	○ ○	◎ ◎	部落問題学習 部落差別に関係の深い事象を題材とし、被差別部落の歴史的・社会的な背景をふまえ課題とし、部落差別の不当性に気付き、差別に対して怒り、差別解消に向けた実践行動力をはぐくむ。

③自他の人権を大切にする主体的な行動力をはぐくむ教育活動の実施

主体的な行動力をはぐくむため、知的理解と人権感覚をバランスよく身に付けさせていくことが重要だと考え、被差別の立場にある人との交流や現地学習、体験を取り入れ、知的理解にとどまることのない、確かな実践行動力を高めた。

また、人権を大切にした主体的な行動力を高めるために、「幸せをつなぐ」を合言葉にした「しあわせ集会」の実施、児童がつくる児童会活動への支援を行った。

さらに、児童の変容の見取りを確実に行うため、研究推進員会に「成果部」を設置した。全職員が児童の姿をレポートに記し、レポートを基に児童の変容を共有した。

〇検証・評価・改善・普及

知識的側面・価値的態度的側面・技能的側面について次の方法で検証・評価した。

〇７月・１２月に実施した学校評価アンケートの比較　（昨年度１２月）

（児童）

ア　学校は楽しい。　95%→96%　(96%)

イ　友達と仲良く活動や学習ができた。　98%→96%　(96%)
ウ　自分もまわりの人も大切にした。　97%→97%　(96%)
エ　自分のよいところが分かる。　80%→80%　(80%)

（保護者）
ア　子どもは学校を楽しんでいると感じている。　96%→97%　(95%)
イ　子どもは相手の立場に立った言動をしている。　83%→86%　(86%)
ウ　子どもは自分のよさに気付いている。　75%→78%　(76%)

児童、保護者ともに「学校生活を楽しんでいる」の項目で 95%以上の高い結果であった。また、相手の気持ちを考えて行動している児童が昨年度と同様に多いことが分かる。実際の生活場面では、困っている友だちに声を掛けたり、異学年グループ活動で、高学年が低学年を優しく導いたりしていた。保護者アンケートの「ウ 自分のよさに気付いている」では、昨年度と比較して２ポイント高くなっている。一人一人の違いを当たり前のこととして認め合える児童、保護者が増えていると言える。実際の姿の見取りからも、見た目や行動の違いをからかったり、責めたりすることはない。

〇学校生活アンケート６月と１１月の比較
ア　いじめ（差別）がいけない理由を説明できる（知）　71%→80%　(82%)
イ　いじめ（差別）をしない、許さない気持ちがある（価）　91%→96%　(95%)
ウ　自分や友達の気持ちを大切にして、誰とでも協力している（技）　94%→96%　(95%)
エ　友達が困っているとき自分から助けている（技）　90%→93%　(95%)
オ　人権や差別の問題について関心をもっている（価）　94%→96%　(96%)

７月の調査では、「ア いじめ（差別）がいけない理由を説明できる」の数値が低かったが、具体的な差別事象を扱った授業では、ほとんどの児童が説明できていた。アンケート用紙で「理由を書いてください」としたため、うまく表現できずに実際の姿よりも低い結果となったと考えられる。いじめや差別を止めるための表現力を付けることが課題である。

自分のこととして考えられるような資料の工夫と、自分の行動を見つめる「対話」を大切にした結果、「イ いじめ（差別）を許さない気持ちがある」の項目では、５ポイントも上がった。

〇自分事として考え、行動につなぐ同和学習の実施について
＜４年生以上において事業開始時と事業終了間際で比較＞
ア　すべての人は大切にされなければならない（知）　96%→100%
イ　自他の人権を守るために自分は何をするのかを考えている（価）　76%→ 95%
ウ　困っている人や差別されている人を助け、仲良くかかわっている（技）　87%→94%

授業内容と関連させ、「すべての人は」の部分を「外国人は（４年生）」「病気の人は（５年生）」「被差別部落の人は（６年生）」と具体的にして調査を実施した。心に響く同和学習を積み重ねた結果、あらゆる差別を許さない気持ち、誰とでもか

かわる態度が育っていることが分かった。ただ、６年生の部落問題学習については、５年生までに学習した人権問題と異なり、全く知らなかった問題であることから、自分のこととして捉えづらかった。そのため、事業開始時に「自分は何をするのか」を具体的に考えることが難しく、数値が低かった。難しい問題であるがゆえに、「他者との対話」「自分との対話」を取り入れた学習を展開し、事業終了間際には全ての項目で高い数値となった。

○同和教育研修会（１１月２１日実施）における地域、他校教職員アンケート分析

全学級が同和学習の授業を公開し、さらに部落差別問題にかかわる講演会を行った。327 名の参観者へのアンケートを実施した。客観的な意見をもとに今後の取組に活かしていく。

＜同和学習に関して＞

・日常にありそうな話をもとに、子どもたちが自分事として真剣に考えている様子がたくさん見られた。１年生が少ない言語能力で一生懸命に話す姿に感銘を受けた。（１年授業参観者）
・どこを子どもたちに考えさせたいか明確になっていた。紙芝居のようにイラスト見せたり、動作を加えてお話を読んだりすることで児童同士の対話が生まれていた。（２年授業参観者）
・障がいがある方との交流について家で楽しそうに話してくれていた。心が豊かになる経験・出会いがありがたい。（３年生保護者）
・性の違和感をカミングアウトした友人に対して「手紙以外の行動でどんなことができる？」という教師の問いに対して、「いつも通りにする」「隣にいる」とつぶやく子がたくさんいた。当事者にとって、周囲の理解が支えになるのだと子どもなりに表現していた。実際に当事者に会い、話をお聞きする経験は子どもたちに大きく影響していると感じた。（４年授業参観者）
・ハンセン病患者の家族関係を図で視覚的に整理していたことで、社会全体の問題であることに気付いていた。「差別は簡単に見えるもの？」「この関係の中に幸せはありますか？」という問いかけでさらに広い視野で深く考えていた。どのタイミングで何を問うかを準備することが大切だと思った。（５年授業参観者）
・新潟水俣病被害者と長年かかわってこられた方と出会い、おもいの深さやエネルギーの大きさを実感していたと思う。人とのかかわりから学ぶ大切さを改めて感じた（５年授業参観者）
・学級経営、児童とのかかわり方、教材研究、高い人権感覚があるからこその素晴らしい授業だった。特に終末での自己開示、自分のおもいを正直に子どもに伝えるからこそ子どもの信頼を得られると思った。（６年授業参観者）

＜講演会に関して＞

・ハンセン病家族の今も続く偏見・差別に憤りを感じました。知らないでいることは、無意識の偏見や差別につながる恐れがあります。差別の現実を正しく知り、当事者の声に耳を傾けることの大切さを学びました。また、家では家族で話し合い学びを深めることができました。（保護者）
・差別が現在も実際にあるにもかかわらず、その事実が見えにくいということは差別解消に向けて大きな課題だと感じました。差別された方のおもいに寄り添いながら、より多くの方に伝えていく必要があり、教育者として、それを子どもた

ちや保護者の方に正しく伝えていく責務があると感じました。（教職員）

＜普及＞

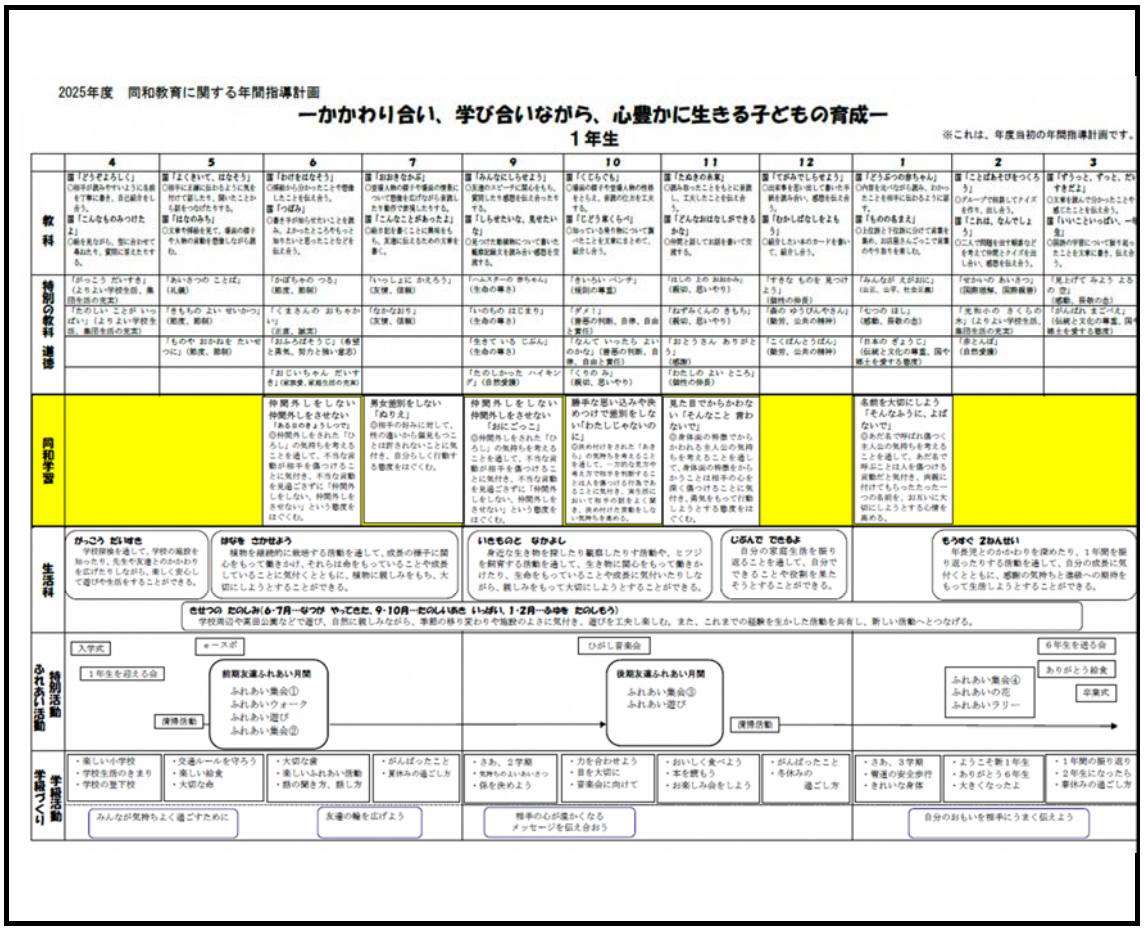
〇保護者、県内小中高等学校、教育委員会等を対象とした同和教育研修会を１１月２１日（金）に実施した。参観者の意識変容については上記のとおり。（今年度の参観者　約 327 人）

〇９月２２日（月）に全学級で「部落問題学習、人権教育」に関する授業を実施し、多くの保護者が参観した。

〇１０月３０日（木）に、中学生と中学校区の小学校６年生が参加し、人権教育講演会を実施した。

〇人権教育、同和教育だより「かけはし」を３回発行し、「部落問題学習、人権教育」の授業や同和教育研修会の様子を伝え、保護者・地域への啓発を図った。

５．人権教育にかかる年間指導計画



2025年度　同和教育に関する年間指導計画

ーかかわり合い、学び合いながら、心豊かに生きる子どもの育成ー

１年生

※これは、年度当初の年間指導計画です。

	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
教科	国「どうぞよろしく」 ○相手が読みやすいように名前を丁寧に書き、自己紹介をし合う。 国「こんなものみつけたよ」 ○前を見ながら、型に合わせて考えたり、質問に答えたりする。	国「よくきいて、はなそう」 ○相手に正確に伝わるように気を付けて話したり、聞いたことから話をつなげたりする。 国「はなのみち」 ○文章や挿絵を見て、場面の様子や人物の言動を想像しながら読む。	国「わけをはなそう」 ○挿絵から分かったことや想像したことを伝え合う。 国「つばみ」 ○書き手が知らせたいことを読み、よかったところやもっと知りたいと思ったことなどを伝え合う。	国「おおきなかぶ」 ○登場人物の様子や場面の情景について想像を広げながら音読したり動作で表現したりする。 国「こんなことがあったよ」 ○絵が起き書くことに興味をもち、友達に伝えるための文章を書く。	国「みんなにしらせよう」 ○友達のスピーチに関心をもち、質問したり感想を伝え合ったりする。 国「しらせたいな、見せたいな」 ○見つけた動植物について書いた観察記録文を読み合い感想を交流する。	国「くじらぐも」 ○場面の様子や登場人物の性格をとらえ、音読の仕方を工夫する。 国「じどう車くらべ」 ○知っている乗り物について調べたことを文章にまとめて、紹介し合う。	国「たぬきの本車」 ○読み取ったことをもとに音読し、工夫したことを伝え合う。 国「どんなおはなしができるかな」 ○仲間と話してお話を書いて交流する。	国「てがみでしらせよう」 ○出来事を思い出して書いた手紙を読み合い、感想を伝え合う。 国「わかしばなしをよもう」 ○紹介したいものカードを書いて、紹介し合う。	国「どうぶつの赤ちゃん」 ○内容を比べながら読み、わかったことを相手に伝わるように話す。 国「もののまえ」 ○上位語と下位語に分けて言葉を集め、お話屋さんごっこで言葉の中を旅行を楽しむ。	国「ことばあそびをつくろう」 ○グループで相談してナイズを作り、出し合う。 国「これは、なんでしょう」 ○二人で問題を出す順番などを考えて仲間とナイズを出し合い、感想を伝え合う。	国「ずうっと、ずっと、だいすきだよ」 ○文章を読んで分かったことや感じたことを伝え合う。 国「いいこといっぱい、一年生」 ○国語の学習について誓う言ったことを文章に書き、伝え合う。
特別の教科 道徳	「がっこう だいすき」（よりよい学校生活、集団生活の充実） 「たのしい ことが いっぱい」（よりよい学校生活、集団生活の充実）	「あいさつの ことば」（礼儀） 「きもちの よい せいかつ」（節度、節制） 「ものや おかねを たいせつに」（節度、節制）	「かばちゃの つる」（節度、節制） 「くまさんの おちゃかい」（正直、誠実） 「おふろばそうじ」（希望と勇気、努力と強い意志） 「おじいちゃん だいすき」（家族愛、家庭生活の充実）	「いっしょに かえろう」（友情、信頼） 「なかなおり」（友情、信頼）	「ハムスターの 赤ちゃん」（生命の尊さ） 「いのちの はじまり」（生命の尊さ） 「生きている じぶん」（生命の尊さ） 「たのしかった ハイキング」（自然愛護）	「きいろい バンチ」（規則の尊重） 「ダメ！」（善悪の判断、自律、自由と責任） 「なんて いったら よいのかな」（善悪の判断、自律、自由と責任） 「くりの み」（親切、思いやり）	「はしの よの おおかみ」（親切、思いやり） 「ねずみくんの きもち」（親切、思いやり） 「おとうさん ありがとう」（感謝） 「わたしの よい ところ」（個性の伸長）	「すきな ものを 見つけよう」（個性の伸長） 「森の ゆうびんやさん」（勤労、公共の精神） 「こくばんとうばん」（勤労、公共の精神）	「みんなが えがおに」（公正、公平、社会正義） 「七つの ほし」（感動、長敬の念） 「日本の ぎょうじ」（伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）	「せかいの あいさつ」（国際理解、国際親善） 「光和小の さくらの木」（よりよい学校生活、集団生活の充実） 「赤とんぼ」（自然愛護）	「見上げて みよう よるの 空」（感動、長敬の念） 「がんばれ まごべえ」（伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）
同和学習			仲間外しをしない仲間外しをさせない「あるひのきょうしつで」 ◎仲間外しをされた「ひろし」の気持ちを考えることを通して、不当な言動が相手を傷つけることに気付き、不当な言動を見過ごさずに「仲間外しをしない、仲間外しをさせない」という態度をはぐくむ。	男女差別をしない「ぬりえ」 ◎相手の好みに対して、性の違いから偏見もつことは許されないことに気付き、自分らしく行動する態度をはぐくむ。	仲間外しをしない仲間外しをさせない「おにごっこ」 ◎仲間外しをされた「ひろし」の気持ちを考えることを通して、不当な言動が相手を傷つけることに気付き、不当な言動を見過ごさずに「仲間外しをしない、仲間外しをさせない」という態度をはぐくむ。	勝手な思い込みや決めつけで差別をしない「わたしじゃないのに」 ◎決め付けをされた「あきら」の気持ちを考えることを通して、一方的な見方や考え方で相手を判断することは人を傷つける行為であることに気付き、実生活において相手の話をよく聞き、決め付けた言動をしない気持ちを高める。	見た目でからかわない「そんなこと 言わないで」 ◎身体面の特徴でからかわれる主人公の気持ちを考えることを通して、身体面の特徴をからかうことは相手の心を深く傷つけることに気付き、勇気をもって行動しようとする態度をはぐくむ。		名前を大切にしよう「そんなふうに、よばないで」 ◎あだ名で呼ばれ傷つく主人公の気持ちを考えることを通して、あだ名で呼ぶことは人を傷つける言動だと気付き、両親に付けてもらったたった一つの名前を、お互いに大切にしようとする心情を高める。		
生活科	がっこう だいすき 学校探検を通して、学校の施設を知ったり、先生や友達とのかかわりを広げたりしながら、楽しく安心して遊びや生活をすることができる。	はなを さかせよう 植物を継続的に栽培する活動を通して、成長の様子に関心をもって働きかけ、それらは命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物に親しみをもち、大切にしようとすることができる。			いきものと なかよし 身近な生き物を探したり観察したりする活動や、ヒツジを飼育する活動を通して、生き物に関心をもって働きかけたり、生命をもっていることや成長に気付いたりしながら、親しみをもって大切にしようとすることができる。		じぶんで できるよ 自分の家庭生活を振り返ることを通して、自分でできることや役割を果たそうとすることができる。		もうすぐ 2ねんせい 年長児とのかかわりを深めたり、１年間を振り返ったりする活動を通して、自分の成長に気付くとともに、感謝の気持ちと連続への期待をもって生活しようとすることができる。		
	きせつの たのしみ(6・7月…なつが やってきた、9・10月…たのしいあき いっぱい、1・2月…ふゆを たのしもう) 学校周辺や高田公園などで遊び、自然に親しみながら、季節の移り変わりや施設のよさに気付き、遊びを工夫し楽しむ。また、これまでの経験を生かした活動を共有し、新しい活動へとつなげる。										
特別活動 ふれあい活動	入学式 1年生を迎える会 e－スポ 前期友達ふれあい月間 ふれあい集会① ふれあいウォーク ふれあい遊び ふれあい集会② 廣博活動				ひがし音楽会 後期友達ふれあい月間 ふれあい集会③ ふれあい遊び 廣博活動				ふれあい集会④ ふれあいの花 ふれあいラリー 6年生を送る会 ありがとう給食 卒業式		
学級活動 学級づくり	・楽しい小学校 ・学校生活のきまり ・学校の登下校	・交通ルールを守ろう ・楽しい給食 ・大切な命	・大切な歯 ・楽しいふれあい活動 ・話の聞き方、話し方	・がんばったこと ・夏休みの過ごし方	・さあ、２学期 ・気持ちのよいあいさつ ・係を決めよう	・力を合わせよう ・目を大切に ・音楽会に向けて	・おいしく食べよう ・本を読もう ・お楽しみ会をしよう	・がんばったこと ・冬休みの過ごし方	・さあ、３学期 ・電運の安全歩行 ・きれいな身体	・ようこそ新１年生 ・ありがとう６年生 ・大きくなったよ	・１年間の振り返り ・２年生になったら ・春休みの過ごし方
	みんなが気持ちよく過ごすために		友達の輪を広げよう		相手の心が温かくなるメッセージを伝え合おう				自分のおもいを相手にうまく伝えよう		

2025年度　同和教育に関する年間指導計画

―かかわり合い、学び合いながら、心豊かに生きる子どもの育成―

2年生

※これは、年度当初の年間指導計画です。

	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
教科	国「ふきのとう」 ○登場人物の様子や言葉と人物の行動など、内容の大体を捉えながら読む。	国「たんぽぽのちえ」 ○時間的な順序を考えながら、内容の大体をとらえる。 体「かけっこ・リレー」 ○運動のきまりを守って、友達と仲良く進んで運動しようとする。	国「スイミー」 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら読む。 体「ボールゲーム」 ○約束を決め、友達と仲良くゲームをし、勝敗を素直に認める。	国「あったらいいなこんなもの」 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。	国「ことばでみちあんない」 ○順序に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考える。	国「お手紙」 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 国「こんなことあった」 ○自分の伝えたい思いを構図や色使いを工夫して表す。	国「そうだんにのってください」 ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ。	国「お話のさくしゃになろう」 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。	国「ようすをあらわすことば」 ○身近なことを表す類句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにする。	国「すてきなところをつたえよう」 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れる。	国「スーホの白い馬」 ○文章を読んで感じたことや分かったことを有する。
特別の教科　道徳	「春がいっぱい」（自然愛護） 「知らない人にも」（礼儀） 「うついころ」（善悪の判断、良心、自由と責任）	「あいさつのしかた」（礼儀） 「お月さまとコロ」（正直、誠実）	「あとかし」（希望と勇気、努力と強い意志） 「もうやらない！」（よりよい学校生活、集団生活の充実） 「金のおの」（正直、誠実）	「みほちゃんと、ともなりのせきのますだくん」（友情、信頼）	「すてきな二年生」（敬愛、思いやり） 「電車の中で」（義切、思いやり） 「もったいない」（勤度、節制）	「しんじていのかな」（勤度、節制） 「ぱんたさんた」（善悪の判断、良心、自由と責任）	「いいかな」（規則の尊重） 「はりきりバンダとだらだらバンダ」（希望と勇気、努力と強い意志） 「ありがとうはだれがいう？」（感謝）	「ゆかみがき」（勤労、公共の精神） 「わたしの町のあんこやさん」（伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度） 「くらべてみよう日本とせかい」（国際理解、国際親善）	「きつねとぶどう」（感謝） 「ぼくも手っぽう」（家族愛、家庭生活の充実） 「やっと会えたね」（生命の尊さ）	「おむかえ」（家族愛、家庭生活の充実） 「とおるさんのゆめ」（職性の伸長） 「つながり合う友だち」（よりよい学校生活、集団生活の充実）	「くみの木と小鳥」（義切思いやり） 「しあわせの王子」（感謝最後の念）
同和学習			公平な態度で接しようとする態度を育てる。 ◎決め付けた言動は差別であることに気付き、だれに対しても公平に接していこうとする態度を育てる。	性別による決め付けはしない「ねりえ」 ◎決め付けられた見方・考え方にとらわれず、自分らしく行動したり、相手の選択を尊重したりする態度を育てる。	どの仕事も大切なもの「いろいろなしごと」 ◎自分たちの生活を支えるために、たくさんの仕事があり、どの仕事もなくてはならない大切な仕事だと理解することができる。	いじめを傍観しない「たかしさんのぬいぐぎ」 ◎周りで見ているだけではいじめは解消しないことに気付き、いじめをとめるための行動を起こそうとする心情を育てる。	名前をからかわない「そんなこといわないで」 ◎自分や友だちの、家族につけてもらった1つの名前を大切にしていこうとする態度を育てる。		外見で差別しない「てるちゃんのかお」 ◎人を見た目で判断せず、相手をありのままに受け止めることの大切さに気付き、分け隔てなく接していこうとする態度を育てる。	違いを認め合おう「みんなちがう　でもみんな」 ◎世界には いろいろな人がいることや自分をはじめ、みんなが同じ地球に生きていることについて考え、ちがいを認め合おうとする心情を育てる。	
生活科	夏野菜を育てよう 自分の野菜を育てる活動を通して、大きく丈夫に育つための方法を調べたり、分かったことをみんなに伝えたりする。 ・はじめまして畑さん　・畑さんと仲良し　・お野菜さんの声を聞こう　・畑の先生に聞こう ・野菜さんの喜ぶことをしよう　・活動の振り返り　・夏休みの世話　・夏野菜さん、ありがとう				秋野菜を育てよう 夏野菜を育てた経験をもとに、友達と助け合いながら秋野菜を育て、収穫の喜びを味わう。 ・秋野菜さんを育てよう　・野菜さんの健康観察　・大きく育て大作戦 ・お野菜さんの喜ぶことをしよう　・野菜の収穫　・活動の振り返り ・秋野菜さん、ありがとう				2年生をふりかえろう これまでの成長を振り返り、成長した自分に充実感をもつとともに、支えてくれた人たちへの感謝の気持ちをもつ。 ・みんなのいいところを見つけよう ・これまでのわたしをしらべよう ・おわったことをまとめよう ・はっぴょうしよう	
	町たんけんに行こう　駅市や近隣の施設を訪れ、事前の変化を感じ取ったり、交流を通して気付いたことを伝えたりする。　・駅市　・公園　・阪堺見神社、富江八幡宮										
ふれあい活動 特別活動	入学式 1年生を迎える会 e-スポ 前期友達ふれあい月間 ふれあい集会① ふれあいウォーク ふれあい給食 ふれあい集会② 遠足 運動会				ひがし音楽会 後期友達ふれあい月間 ふれあい集会③ ふれあい遊び 遠足				ふれあい集会① ふれあいの花 ふれあいラリー 6年生を送る会 ありがとう給食 卒業式		
学級活動 学級づくり	・学級のめあて ・学級の組織作り ・図書館の使い方	・e-スポに向けて ・廊下の歩行 ・お楽しみ会	・歯の健康 ・係の工夫 ・雨の日の過ごし方	・大切な命 ・1学期お楽しみ会 ・夏休みの過ごし方	・2学期のめあて ・よりよい係 ・気持ちのよいあいさつ	・ひがし音楽会に向けて ・招待状作り ・身の周りの整頓	・自分のよさ、友達のよさ ・本を読もう ・メディアと健康	・お楽しみ会 ・2学期の振り返りと冬休みの過ごし方	・3学期のめあて ・係活動の工夫 ・給食への感謝	・自分の心の鬼退治 ・ありがとう6年生	・2年生ありがとう会 ・1年間の振り返り
	みんなが気持ちよく過ごすために　　友達の輪を広げよう				相手の心が温かくなるメッセージを伝え合おう				自分のおもいを相手にうまく伝えよう		

2025年度　同和教育に関する年間指導計画

―かかわり合い、学び合いながら、心豊かに生きる子どもの育成―

3年生

※これは、年度当初の年間指導計画です。

	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
教科	国「春風をたどって」 ○登場人物の気持ちを確かめ、感じたことを伝え合う。 国「春の生き物」 ○見たりさわったりしながら直接自然に触れる。	社「わたしたちのまちと市」 ○身近な地域に愛情をもつ。 国「チョウのかんさつ」 ○チョウの誕生から成長の過程に感動しながら観察をする。	国「まいごのかぎ」 ○登場人物の変化に気を付けて読み、好きな場面について伝え、互いの考えを話め合う。 社「市のようす」 ○土地市について興味を持つ。	国「仕事のくふう、見つけたよ」 ○相手意識や目的意識をもって、報告文を書く。	国「こんな係がクラスにほしい」 ○夏見の実過点や協進点に気を付けて話し合う。 社「はたらく人とわたしたちのくらし」 ○身近な地域で、人々が販売や生産に関する仕事に携わり、わたしたちを支えていることが分かる。	国「ちいちゃんのかげおくり」 ○登場人物の行動や会話から、人物の気持ちの変化や性格、情景をとらえて読む。 国「おすすめの一さつを決めよう」 ○進行に沿って、話で話し合う。	国「すがたをかえる大豆」 ○調べたことを基に、段落や事例の順序を考え、相手に伝わりやすい文章を書く。書いたものを交流し、話め合う。	国「三年とうげ」 ○登場人物の行動や気持ちをとらえて、昔人だ民話を紹介し、話め合う。	国「ありの行列」 ○文章を読んで感じたことを共有し、多様な感じ方があることに気付く。 社「地域の安全を守る」 ○3年事例・事故から私たちを見守っていることについて調べ、そこにはどんな思い・情いを考える。	国「お気に入りの場所、教えます」 ○筆者に伝わるように理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるように話し合う。 社「わかる道具くらし」 ○昔の道具から、生活の移り変わりや人々の願いを理解する。	国「モチモチの木」 ○場面の移り変わりと結び付けて、登場人物の気持ちの変化や性格を考える。考えたことをまとめ、伝え合う。
特別の教科　道徳	「あなたならできる」（勤度、節制） 「気持ちのいいあいさつ」（礼儀） 「見がら」（友情、信頼）	「ふるしき」（伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度） 「ライフラフのまって道」（国際理解、国際親善）	「ヒキガエルとロバ」（生命の尊さ） 「親切な」（規則の尊重） 「えがおいっぱい（よりよい学校生活、集団生活の充実）	「エプロン」（個性の伸長） 「気付く心」（義切、思いやり） 「おそろしいゲームいぞん」（勤度、節制）	「悪いのはわたしじゃない」（正直、誠実） 「仲間だから」（友情、信頼） 「いじめって何？」（友情、信頼）	「何がいけないのかな」（礼儀） 「楽しめばすむとなる」（希望と勇気、努力と強い意志） 「ジッジボール大会」（公正、公平、社会正義）	「おたじの味、加藤」（家族愛、家庭生活の充実） 「よわわし大臣」（勇善の判断、良心、自由と責任）	「びっかびか」（勤労、公共の精神） 「なんと言ってつたえる？」（相互理解、寛容） 「おにのかんたのゆめ　あんない」（家族愛、家庭生活の充実）	「ひと言の重さ」（勇善の判断、良心、自由と責任） 「ランランロロルはよう」（自然愛護）	「花のひみつ」（感謝） 「自分たちにできること」（国際理解、国際親善）
同和学習			意見をもって行動しよう「どうしたらいいんだろう」 ◎固定観念の気持ちに考えることを通して、いこのもられる人のつらい気持ちも考えて行動することの大切さに気付き、解決に向けて自ら行動しようとする態度をはぐくむ。	決め付けをしない「たたいてないのに」 ◎決め付けられた「あみ」の気持ちを考えることを通して、決め付けをせずに相手の立場すること、自分の行動を見直すことの大切さに気付き、解決に向けて自ら行動しようとする態度を育てる。	オンラインゲームでもいじめをしない「なぜ？オンラインゲームでいじめ」 ◎オンラインゲームでいじめを受けたりされたりする経験をもつ子どもが多いことから、オンラインゲームでのこれらの解決の仕方を考えることを通して、いこのもとないために決め付けをせず、行動しようとする態度を育てる。	互いの違いを認め合おう「ごろりごろ」 ◎多様な友達の意見だけを捉えて争いを起こした登場人物に対して、自分の考えを話し合うことで、違いの考え方の多様さに気付くとともに、自分の考えを広げようとする態度を育てる。	共に生きる社会をつくるために「勇気ふるってがんばれ！」 ◎花崎さとみさんの生き方を通して、その強さを認めるとともに、その強さの裏にある弱さにも気付き、自分の弱さを受け入れながら生きていこうとする態度を育てる。	高齢者のおもいを大切にしてかかわる「2人のおじいさん」 ◎高齢者に対する固定的な見方に惑り、高齢者のおもいを大切にしようとする態度をはぐくむ。	個見をもたずに相手とかかわろう「ごろごろ鳥の鬼」 ◎真実を確かめず、思い込みで判断することが原因に起こりやすいことに気付き、個見を持たずに自らかかわろうとする態度を育てる。	相手のことを考えてかかわろう「全員できたあ」 ◎違いにかかわらずにかかわり合うことの大切さに気付き、違いのあるみんなのおもいを大切にかかわろうとする態度をはぐくむ。	
総合的な学習の時間	高田の「四季」を見つけよう ・青田川、西崎公園、朝市に行き、季節を感じるものを見付け、季節の変化に気付く。 ・見付けた「四季」を記録する。	高田の「四季」を詳しはどう ・植物や生き物、景色などから感じたことを、絵や五七五に表現する。	高田の「史記」を見つけよう ・地域にある歴史を感じるものを見付け、古くからあるもののよさに気付く（高田小町、旧今井染物屋など）。		障がいのある方とのかかわり ・聴覚に障がいがある方や肢体不自由の方との交流を深める。				高田の「しき」を伝えよう ・成果をまとめ、どのように伝えるか話し合う。 ・今まで学習してきて分かったことや感じたこと、考えたことをまとめ、伝える。 ・プレゼンテーション　・紙芝居 ・ポスターや新聞　・動画 ・絵本　・朗読	
ふれあい活動 特別活動	入学式 1年生を迎える会 e-スポ e-チャレ 前期友達ふれあい月間 ふれあい集会① ふれあいウォーク ふれあい集会② ふれあい遊び 遠足 運動会				ひがし音楽会 後期友達ふれあい月間 ふれあい集会③ ふれあい遊び 遠足				ふれあいラリー ふれあい集会④ ふれあいの花 6年生を送る会 卒業式		
学級活動 学級づくり	・学級のめあて ・学級の組織作り ・あいさつ	・e-スポに向けて ・廊下の歩行 ・交通ルール	・歯の健康 ・食事・睡眠・運動の大切さ ・雨の日の過ごし方	・1学期お楽しみ会 ・夏休みの過ごし方	・2学期のめあて ・よりよい学級のための係活動やルール ・あいさつ	・ひがし音楽会に向けて ・振り返り ・身のまわりの整頓	・給食への感謝 ・友達のよさ ・メディアと健康	・2学期のお楽しみ会 ・2学期の振り返りと冬休みの過ごし方	・3学期のめあて ・係活動の工夫 ・安全で楽しい冬の過ごし方	・6年生を送る会成功にむけて ・家庭学習の振り返り	・一年間を振り返って ・春休みの過ごし方
	みんなが気持ちよく過ごすために友達の輪を広げよう				相手の心が温かくなるメッセージを伝え合おう		自分のおもいを相手にうまく伝えよう				

2025年度　同和教育に関する年間指導計画

―かかわり合い、学び合いながら、心豊かに生きる子どもの育成―

4年生

※これは、年度当初の年間指導計画です。

	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
教科	国「白いぼうし」 ○作品について、友達と受け取り方に違いがあることに気付き、自分の考えをもちながら読む。	社「種類なくらしとまちづくり」 ○私たちのくらしを支えるしくみを理解したり、そこで働いている人々の思いや願いについて考えたりする。	国「一つの花」 ○登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて想像したり、思ったことを伝え合ったりする。	国「新聞をつくろう」 ○常田川について知ったことや学んだことの中から、伝えたいことを明確にして新聞にまとめ、読み合ったりする。	国「ごんぎつね」 ○叙述を基に、情景の描写や登場人物の気持ちを想像しながら読んだり、考えたことを伝え合ったりする。	国「クラスみんなで決めるには」 ○学級の課題について話し合い、目的や役割を意識して、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら考えをまとめる。	社「地域でうけつがれてきたもの」 ○地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、保存や継承に関わっている人々の願いや努力について考える。	社「昔から今へと続くまちづくり」 ○地域の発展に尽くした先人の働きと人々の生活の向上を関連付け、先人が地域の発展や生活の向上に貢献したことを理解する。	国「自分だけの詩集をつくろう」 ○自分だけの詩集を作り、詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く。	社「わたしたちの県のまちづくり」 ○県内の特色ある地域では、人々が協力し、まちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解する。	国「スワンレイクの白とりで」 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く。
特別の教科　道徳	「ここまでもどってこれた、今がとっても幸せ」 （感動、畏敬の念）	「かかいくない？」 （正直、誠実）	「命のバスていりゅう所で」（規則の尊重）	「心とこのあくしゅ」 （親切、思いやり）	「だまっていればわからない」（正直、誠実）	「学校のにまんを大切に」 （よりよい学校生活、集団生活の充実）	「ダムライス」 （家族愛、家庭生活の充実）	「世界の子どもたちのために」 （国際理解、国際貢献）	「グラドレーのせいきゅう書」 （家族愛、家庭生活の充実）	「いっちゃんに『ファイト！』」 （感動）	「ダイダとコロア」 （自然愛護）
	「自覚ま し時計」 （節度、節制）	「かっこいいせなか」 （勤労、公共の精神）	「プロレスごっこ」 （公正、公平、社会正義）	「また、試合しようね」 （礼儀）	「ティーボールでのできごと」（協同の精神）	「絵はがきと切手」 （友情、信頼）	「見方を変えて前向きに」 （善悪の判断、自律、自由と責任）	「受けつがれてきた命」 （自然愛護）	「ねうどんの父」 （希望と勇気、努力と強い意志）	「日本人の手でオルガンを」 （希望と勇気、努力と強い意志）	「やっぺし」（伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）
	「つながる やさしさ」 （親切、思いやり）	「ほっとけないよ」 （善悪の判断、自律、自由と責任）	「どう言えばいいのかな」（礼儀）	「命」（生命の尊さ）	「伝った原記に」 （友情、信頼）	「人によって態度を変えるのはだめ？」 （公正、公平、社会正義）	「○○のくせに」 （相互理解、寛容）	「わかってくれてありがとう」（相互理解、寛容）	「十さいのプレゼント」 （感動、畏敬の念）		
			「守りたい自分のこうほう」（節度、節制）	「学校のおさし」（感謝）	「おばあちゃんとの思い出」（生命の尊さ）	「赤鬼」（伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）					
同和学習			職業に対する差別や偏見をなくそう 「走れ！緑のバッカー東」◎働いている人の気持ちを考えることを通して、職業に対する「やりがいと誇り」に気付き、どの仕事も私たちの生活を支える大切な仕事であるという意識を高める。		いじめていい理由なんてない「仕方ない」と思うよ」◎単元導入ではあるが、みんなに迷惑をかけて陰口を言われる理由があっても「いじめをしない、言さないという態度を育てる。	無意識にしている差別に気付き、向き合うために～外国人への差別から考える～「ある日、コンビニで」◎無意識に偏見をもっていた自分自身に気付き、偏見をもたれる外国人の心情におもいをめぐらせ、誰に対しても偏見をもたずにかかわろうとする気持ちを高める。	男女にとらわれないで関わり合おう「ぼっくう」って何だろう」◎特に対する偏見がないか、自分自身を見つめることを通して、自他のだいせ尊重し、互いの自分らしさを大切にしていこうとする態度を育てる。	一人一人の権利を尊重する「最近の子どもは」って一◎大人から偏見に満ちた言葉を言われたり子どもの心傷や、子どもの意見を尊重している大人の声をについて考えることを通して、権利を守ることの重要性に気付き、一人一人を大切にしようとする態度を育てる。	真実を見つめる眼「魔」◎就業体験に感じられることなく、互いに交流を深めていく人々の姿を通して、相手の本当の姿を知ることの大切さを理解するとともに、情報を簡単に信じず冷静に確かめることを大切にしようとする心情を育てる。	グループトークでもいじめをしない「グループトークでいじめ そんなつもりじゃなかったのに…」◎グループトークでいじめを受けた「たけし」の気持ちを考えることを通して、グループトークでもいじめをしないという態度を育てる。	
総合的な学習の時間	人の「命」について知ろう ・「命」について、知りたいことや調べたいことを互に、これからの活動を考える。 ・人の誕生や誕生の様子について、実際映像や地域の保健師の方に教えてもらう。 ・自分が生まれたときのエピソードを、家族に教えてもらう。	人の「命」と触れ合おう ・実際赤地区を訪問し、実際に交流する。 ・相手に喜んでもらうためには何をどうしたらよいかを考え、活動を工夫する。 ・赤ちゃん誕生日を実施し、赤ちゃんと触れ合ったり母親から話を聞いたりする。			植物の「命」を育てよう ・ツウセンカズラを種から育て、成長の様子を観察する。 ・種ふさずに観察するためにはどのような世話が必要なのか考察・実行する。 ・収穫した種を全校児童や地域になった人にプレゼントする。	動物の「命」を育てよう ・１年生と一緒にヒツジを飼育し、世話のしかたなどについて、１年生に教える。 ・ヒツジが健康な状態を保つために必要なことを考え、実行する。 ・動物の保護支援をしている団体の方から、動物の命を守るためにできることを教えていただく。		見つめよう 自分の「命」 ・これまでの学習や体験活動で学んだことや、これからの自分の生き方について考え、まとめ、発信する。			
特別活動　ふれあい活動	入学式 １年生を迎える会 １年生と仲良くなろう知開 e－スポ e－チャレ 前期友達ふれあい月間 ふれあい集会① ふれあいウォーク ふれあい集会② ふれあい遊び 後期活動				ひがし音楽会 後期友達ふれあい月間 ふれあい集会③ ふれあい遊び 後期活動				ふれあい集会① ふれあいラリー ふれあいの花 ６年生を送る会 卒業式		
学級活動　学級づくり	・学級のめあて ・係活動の目的 ・図書室の使い方	・e－スポに向けて ・お楽しみ会をしよう ・音楽会について	・歯を大切にしよう ・係活動を工夫しよう ・雨の日の過ごし方	・１学期おまし会 ・１学期の振り返り ・夏休みの過ごし方	・２学期のめあて ・学級のきまり ・気持ちのよい挨拶	・音楽会に向けて ・健康のために続けること	・読書に親しもう ・健康生活とメディア ・身の回りの整頓	・２学期の振り返り ・お楽しみ会 ・冬休みの過ごし方	・３学期のめあて ・学級のきまりの見直し ・自分の成長	・心の毒を追放しよう ・６年生を送る会の成功に向けて	・１年間の振り返り ・お世話になった方へ ・３年生への決意
	みんなが気持ちよく過ごすために	友達の輪を広げよう			相手の心が温かくなるメッセージを伝え合おう		自分のおもいを相手にうまく伝えよう				

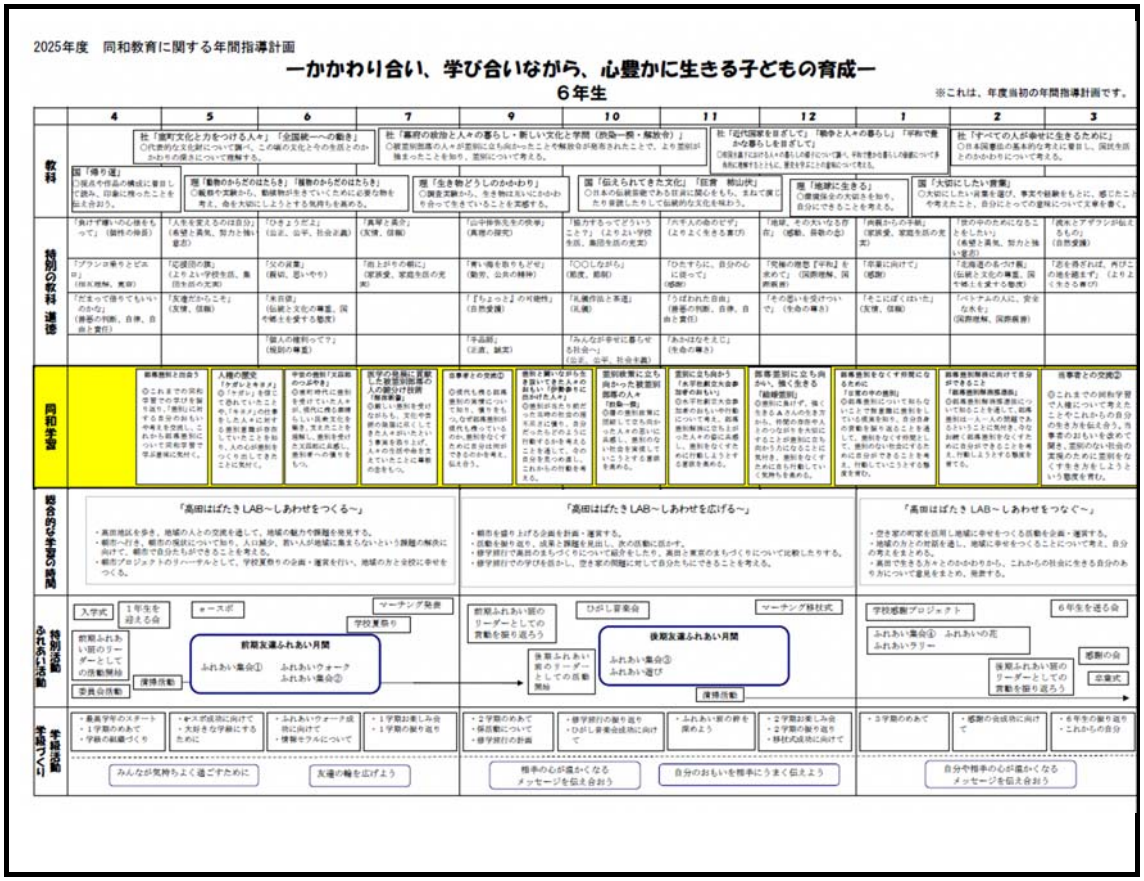
2025年度　同和教育に関する年間指導計画

―かかわり合い、学び合いながら、心豊かに生きる子どもの育成―

5年生

※これは、年度当初の年間指導計画です。

	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
教科	国「印象に残ったことを伝え合おう」 ○「銀色の真地」の登場人物同士の関係を捉え、特徴と感じたことを話し合う。	理「植物の発芽と成長」 ○植物が発芽した後、成長していくために必要な条件について学び、身の回りの植物の生長に関心をもつ。	国「きいてきいていてみよう」 ○話し手の目的や自分の意図に応じて、話題や情報を得る内容を決めて話し合いを進める。	社「これからの食料生産」 ○わが国の食料生産の問題点を理解し、安心、安全な食料確保のための食料生産のあり方を考える。	社「環境をともに守る」 ○公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さを理解するとともに、世界もことに及ぶために自分ができることを考える。	家「食べて元気！ごはんとみそ汁」 ○食事の役割と栄養、伝統的な日常食の調理について知り、食べることとの大切さを考える。	国「たがいの立場を明確にして、話し合おう」 ○目的や意図に応じて、目常生活の中から話題を決め、互いの立場や意図をはっきりさせながら話し合う。	国「生き方について考えよう」 ○文章を読んで理解したことを基づいて、自分の考えをまとめることができる。	国「想像力のスイッチを入れよう」 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる。	社「くらしと産業を変える情報通信技術」 ○情報の種類、活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状について考え、表現する。	国「子ども未来科で何をする」 ○自分が興味あることについて調べ、資料を活用し、情報を明確にして自分の意見を伝える。
特別の教科　道徳	「今度こそ！」 （善悪の判断、自律、自由と責任）	「よさこいソーラン祭り」 （伝統と文化の尊重）	「公益のために生きる」 （よりよくきる喜び）	「偏見産のガンマンの恐い」 （勤労、公共の精神）	「わたしにできることを」 （家族愛、家庭生活の充実）	「二度人を救った化学者―大村智―」 （真理の探求）	「ルールを守る」（規則の尊重）	「お父さんのすがたから」 （感動）	「パール富士のかがやき」 （感動、畏敬の念）	「青い目の人形」 （国際理解、国際貢献）	「世代をこえた思いやり」 （家族、思いやり）
	「修園に合わせたあいさつ」 （礼儀）	「位置について！」 （公正、公平、社会正義）	「言葉のおくりもの」 （友情、信頼）	「参考にするだけなら」 （正直、誠実）	「国書はばねのもの」 （規則の尊重）	「わたしとあなたの『ふつう』はちがう」 （公正、公平、社会正義）	「セントゴメリーのバス」 （公正、公平、社会正義）	「トキのまう空」 （自然愛護）	「食品のヌをどう防ぐ？」 （節度、節制）	「新幹線開発物語」 （希望と勇気、努力と強い意志）	「節の詰まった箱」 （相互理解、寛容）
	「自分のよさを見つめて」 （協性の伸長）		「図書ふいにの」 （善善の判断、自律、自由と責任）		「福ぐちの大」 （生命の尊さ）	「命の歌」 （よりよい学校生活、集団生活の充実）	「ロレンゾの友達」 （友情、信頼）	「ネット上の友達」 （節度、節制）	「一ホー石油船―自然保護活動のささげて」 （自然愛護）	「折の節度所よりも一本の用水路を―中村哲―」 （国際理解、国際貢献）	「節の しょく会」 （相互理解、寛容）
同和学習			仲間の支え合い「切られた心」 ◎いじめを自己の問題としてとらえ、お互いに支えあおうにのみならなくして行こうとする態度を育てる。	いじめを見逃さない「どうしたら自分を守れるか」 ◎いじめをなくすために自分ができることを具体的に考え、行動にとどうとする態度を育てる。	ありのままを理解する心「ぼくの服」 ◎梅雨前血管調のために障がいがある傳井陽明さんの小学校時代のおもいに共感することや同やの人たちの行動について考えることを通して、差別的なことで苦別せず、相手のありのままを理解し…ひけ隔てなく接していこうとする気持ちを高める。	ハンセン病による偏見や差別をなくすために「ハンセン病であるということ」（2H） ◎ハンセン病であることを理由に苦別を受けてきた患者や家族の心情を考える活動を通して、病気による新しい差別の不当性に気付き、病気に対する偏見や差別をなくすために行動しようとする心情を育てる。	新型水俣病の被害者に対する偏見や差別をなくすために「もうひとつの新型水俣病」「私と新型水俣病」「夢、阿賀の神話について」（2H） ◎新潟水俣病の被害者が受けた差別や偏見について知り、差別に立ち向かう生き方に共感することを通して、差別を許さず、差別の解消のために行動しようとする態度を培てる。	と通で働く人への偏見や差別をなくすための行動「上番の仕事」（2H） ◎上番の仕事の魅力を伝えようとする人の話を聞いたり、上番で働いている人々のおもいや願いを考えたりすることを通して、上番の仕事に対する偏見や差別をなくすために自分も行動しようとする態度を培てる。	差別に立ち向かう「ざるにはざるを」 ◎太郎の行動の意味を考えることを通して、自分を信じて差別に立ち向かうことの大切さに気付き、自らが差別をなくそうとする意志と実践力をはぐくむ。	
総合的な学習の時間	動画ニュースを作ってみよう ・ニュース番組を製作している過程や裏話を見学し、情報を伝える側の努力や工夫、それらの仕事の魅力について考える。 ・体験活動や学校行事などを中心に動画ニュースづくりに取り組む。										
	「ひがほんニュース」を放味しよう ・学校で起きている出来事や、各学年の活動を紹介する「ひがほんニュース」を製作し、学校の「幸せ」を全校にひろげていく。										
特別活動　ふれあい活動	入学式 １年生を迎える知開 e－スポ e－チャレ 英学年としてのスタート 委員会活動 ふれあい班 前期友達ふれあい月間 ふれあい集会① ふれあいウォーク ふれあい遊び ふれあい集会② 後期活動				ひがし音楽会 後期友達ふれあい月間 ふれあい集会③ ふれあい遊び 後期活動			マーチング移技式		ふれあいラリー ふれあい集会④ ふれあいの花 ６年生を送る会 ありがとう給食 来年度ふれあい班のリーダーになることの意味 卒業式	
学級活動　学級づくり	・５年生学年開き ・学級の組織づくり	・学級のルールづくり ・大好きな学級にしよう ・e－スポを成功させよう	・丈夫な歯にしよう ・係活動を活発にしよう ・学級ポ’ンを盛り上げよう	・１学期の反省と夏休みの計画づくり	・２学期のめあて ・学級の絆を深めよう ・「人権」を考えよう ・音楽会に向けて	・係活体験活動を成功させよう ・目を大切にしよう ・音楽会を成功させよう	・収穫祭を成功させよう ・読書に親しもう ・金管楽器に親しもう	・ヤホ’を引き継ごう ・マーチング移技式を成功させよう ・２学期を振り返り、冬休みの計画を立てよう	・３学期のめあて ・係活動を工夫しよう	・６年生を送る会を成功させよう。そのために、自分にできることを考えよう。	・５年生を振り返ろう ・最高学年への決意
	みんなが気持ちよく過ごすために 友達の輪を広げよう				相手の心が温かくなるメッセージを伝え合おう		自分のおもいを相手にうまく伝えよう				



６．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会等を含む）

